

沖繩県と沖繩美ら島財団 園芸農業の振興に関する協定を締結

沖繩美ら島財団と沖繩県農林水産部は、園芸農業の振興に関する協定を締結しました。今後、亜熱帯地域の温暖な気候と土壌の特性を生かした沖繩県の園芸農業の振興を図ることを目的に、両者の協働による事業等を推進していきます。

【締結式】

- 日 時：平成 27 年 3 月 10 日（火） 16:00～
- 場 所：沖繩県農林水産部長室
- 調印者：沖繩県農林水産部長 山城毅
（一財）沖繩美ら島財団 理事長 花城良廣



締結式の様子

【協定締結の背景】

沖繩県では、沖繩 21 世紀農林水産業振興計画に基づき、沖繩の地域特性を生かした施策を推進し、農林水産業の振興を図っています。特に、今後生産拡大が期待される園芸作物などの戦略品目については、新品種や技術の開発・普及などを積極的に推進し、おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化に取り組んでいます。これらの取り組みを加速させていくため、民間組織との連携を図っています。

沖繩美ら島財団は、総合研究センターを中心に亜熱帯性植物の調査研究に取り組んでおり、熱帯果樹や花卉等の肥培管理や増殖技術に関して豊富な知見を持っています。また、国営沖繩記念公園を管理運営し、観光に関する豊富な知見を有しています。

沖繩県と沖繩美ら島財団が連携することにより、園芸品目についての技術の交流や、観光客をターゲットとしたマーケティング調査等の実施が可能になります。両者の協働による事業等を通じ、亜熱帯地域の温暖な気候と土壌の特性を生かした沖繩県の園芸農業の振興を図ることを目的に、協定を締結しました。

【今後について】

今後は、沖繩県と沖繩県農業研究センター、沖繩美ら島財団で構成される「沖繩県・沖繩美ら島財団連携推進会議」を設置し、熱帯果樹及び熱帯花卉の栽培・増殖の技術開発や技術交流、種苗供給体制の構築等に取り組んでいきます。

また沖繩美ら島財団が千葉大学との共同研究により、絶滅危惧植物であるリュウキュウベンケイを交配して作った切花用の園芸品種「ちゅらら」シリーズの普及に向けた取り組みなども協働で行っていきます。



「ちゅらら」シリーズ